

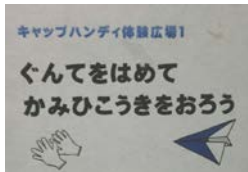
学校図書館支援センター通信 NO.106 12月号



平成28年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

信篤小学校 読書まつり 11月8日(火)～25日(金)

「I♥あいフェスタ in 信篤ーみんなちがってみんないいー」というテーマで、読書と福祉を組み合わせた読書まつりが行われました。福祉に関する本を読み、体験することでハンディキャップのある人を理解し、みんなで協力できる心を育てることを目的としました。手話をしながら歌うことや、軍手をはめて紙飛行機を折ったり、手作りのリーディングトラッカー(※)を使って文字を読んだり、糸で作った文字を読んだりして心と体を使って体験することができました。また、学校図書館研修会・ネットワーク会議2で講師の野口武悟先生に紹介していただいた、LLブックを活用した新しい体験学習にも挑戦されました。LLブックとは、「やさしく読める本」という意味で、写真とピクトグラムという絵文字を添えることにより、読むことが難しい人にも読みやすくわかりやすく書かれた本のことです。信篤小学校では、LLブックの内容に合う絵文字を当てはめる活動を行いました。このような体験学習を通して、3類の本を手にとる子供たちが増え、読書の幅が広がったことでしょう。



※リーディングトラッカーとは、視覚障害がある方や集中して本を読みたい方の読書補助具です。読みたい行だけに視線を向けて読むことができます。

塩焼小学校 読書講演会「富安陽子さん」 11月25日(金)

児童文学作家の富安陽子さんをお招きした、読書講演会が、低学年の部と高学年の部に分かれて行われました。富安さんは、「ムジナ探偵局」「シノダ!」「やまんばあさん」「妖怪一家 九十九さん」など、子供たちに大人気の作品を生み出しておられます。

講演会の中で、本を書くときに、どのぐらいの原稿用紙を使うか予想しました。絵本の場合は5～6枚で、「天と地の方程式」のような長い作品は、500枚程度書くそうです。その多さに、低学年の子供たちは驚いていました。また、富安さんが幼少の頃、おばあさんからたくさん妖怪の話を聞いていたことがきっかけとなり、妖怪の話を書くようになったそうです。講演会では、おばあさんから聞いた妖怪の話の一つである河童の話を語り聞かせてくださいました。子供たちは、河童のちよっぴり怖くて不思議な話の世界に引き込まれているようでした。また、「河童除けのおまじない」や「相撲で河童に勝つ方法」をクイズ形式で教えてくださいました。「話を書くことは難しいけれども、私の頭の中で空想したことが本になり、いろいろな人が楽しんでいることが嬉しい。」とおっしゃっていたことが印象的でした。



図書館の窓から ～ひろげよう! 図書館の輪・リレー執筆～

稲荷木小学校では、11月に読書まつりを行いました。図書委員が中心となり、さまざまなイベントを準備し、全校みんなで読書の秋を満喫しました。特に、図書委員が活躍したのは、低学年用の読書クイズ作りと、読書集会での影絵の出し物です。読書クイズは、休み時間にクイズを解きにきた子供たちで図書館が大賑わいとなり、たくさんの本を読んでもらうきっかけになりました。

今年読書まつりのテーマを『ようこそ いろとりどりのほんのせかいへ おはなしぼうけん はじまるよ』に設定し、影絵では、レオ=レオニの「あおくとときいろちゃん」「スイミー」を行いました。カラーセロファンを使って色とりどりの世界を表現し、みんなに楽しんでもらえるよう、何度も練習を重ねました。

図書委員は、全校のみんなが本に興味を持ってもらおうと、読書の幅を広げるサポートができたことで、やりがいや達成感を味わうことができました。これからも日々の当番活動を通して、子供たちが自ら行動する意識を高めていきたいと考えています。



読書クイズ正解者にしおりをプレゼント



影絵の練習風景

(市川市立稲荷木小学校 学校司書 岡嶋 麻記子)

幸小学校 校内研究会(1年生) 11月16日(水)

幸小学校では、「伝え合い、共に学び合う子の育成」を研究主題に、研究授業が展開されました。

1年生は、入学してから毎日の家庭学習に音読を取り入れることで読む土台ができ、長い文章も読めるようになってきました。教科書だけでなく、詩や百人一首の暗唱にも意欲的に挑戦しています。今回の単元を実践するにあたり、先生方は、「読んで楽しむ」ことを大切にしたいという思いを持ってスタートしました。「天にのぼったおけやさん」の学習を通して、学習指導要領「C 読むこと」の「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を身に付けるために、各学級の実態に合わせて、音読発表、音読劇、講談に取り組みました。導入では、子供たちに番傘や風呂敷などの実物を見せて、昔話を想像しやすいように工夫していました。ある学級では、授業の最後に自己評価をする時間を設けて、1年生なりにめあてが達成できたどうか振り返ることができました。



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

